

第79回国民スポーツ大会冬季大会 アルペン競技 成年男子A

町出身の 鏡颯太選手が優勝

町出身選手では15年ぶりの全国制覇！

秋田県鹿角市で行われた国民スポーツ大会 アルペン競技 成年男子A (19歳から24歳)のクラスに出場した町出身の鏡颯太選手 (向町出身) が、並みいる強豪を相手に得意の急斜面で実力を発揮し、栄冠を手に入れました。
今回は鏡選手に国スポや、赤倉温泉スキー場についてお話を伺いました。

プロフィール
鏡 颯太 (かがみ そうた)
向町地区出身
2003年3月29日生
(向町小学校-最上中学校
-山形中央高校-日本大学)



国スポのゴール前。果敢にゴールを目指す鏡選手。

日本一に驚きと嬉しさ

鏡選手は、先日行われた「第79回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会」あきた鹿角国スポ2025 アルペン競技 成年男子A」で見事優勝を成し遂げました。急斜面が8割を占める全国的に難しいコースで開催された今大会。同選手はゼッケン1番でスタートし、最後まで電光掲示板の頂点を譲ることはありませんでした。
町出身のスキー選手が国民スポーツ大会 (旧・国民体育大会) で優勝したのは、2010年に行われた「第65回くしろサツポロ氷雪国体」(少年男子結城智裕選手) 以来で、実に15年ぶり

です。昨年雪不足の中、赤倉温泉スキー場で行われた、「第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会 やまがた雪未来国スポ2024」に同選手が出場することはできませんでしたが、その悔しさをバネに今シーズンは、複数の国内のレースで上位に入賞し好調をキープ。今回の勝因を同選手に尋ねると、「今回の国スポにバフォーマンスのピークを持ってこれるように、シーズン中の大会選びや活動を考えながら生活していました。」と語ってくれました。
また、優勝してみても感想を聞くと、「出場選手に、自分よりも実力が上の選手もいたので、その中で優勝出来たことに驚きもあつたが、素直に嬉しいです。」と話してくれました。

最上町でスキーをしたことが今の自分に繋がった

鏡選手は、当町で生まれ育ち、赤倉温泉スキー場で3歳の頃にスキーを始めた。スキーとの出会いを伺うと、「スキーの指導者でもある父にスキー場へ連れて行ってもらったことがきっかけです。」と話します。その後、小学1年から町スポーツ少年団のチームで本格的にスキー競技を始めます。最上中学校時には、同スキー場で行われた「第54回全国中学校スキー大会」に山形県代表として出場。中学を卒業後は、山形中央高校へ。インターハイでは上位入賞を成し遂げています。現在、日本大学の4年生。粘り強い精神力と、努力を惜しまないクレバーなスキーヤーと評する方もいます。
そんな鏡選手は、赤倉温泉スキー場



大学時代は時間を見つけて通い詰めた赤倉の国体コース。

ではどちらの斜面でもスピードを追及できるようにになりました。
さらに、競技で技術を追求してきたことだけでなく、同スキー場で一緒に滑ってきた仲間たちと、楽しくスキーが出来たことも、大学生まで競技を続けられた理由の一つだと笑顔で答えてくれました。

町の小学生も赤倉温泉スキー場で成長してほしい

大学卒業後は、県内企業に就職を予定している鏡選手。現役は引退しますが、今後も国スポ出場を目指し、選手としての模範を示しながら町のスキーの発展に貢献したいと話します。また、町でスキーを頑張っている子どもたちへの思いも語ってくれました。

「私は小さい頃からずっと、赤倉温泉スキー場で練習してきました。大学に入ってからも時間を見つけて通い詰めたほです。今の小中学生にもスキーを楽しみながら、赤倉の斜面を攻略して技術を習得してほしいです。また、斜面変化への対応は、どこのスキー場に行っても必要ですし、そうした技術があれば戦えます。日本一を目指して頑張ってください。」と話してくれました。鏡選手へのインタビューを通して、同スキー場を誰よりもリスペクトする思いや、選手としてストイックさを追及する姿勢を感じました。
数多くのオリンピック選手や、国体、国スポチャンピオンを輩出してきた最上町。町のスキー場から、鏡選手のように日本一や世界を目指す子どもたちが今後も現れることを期待します。

参加した子どもたちから



未就学児クラス 結城柊都 くん (年少)

私は、この大会に年長の頃から出ています。ボーゲンでも参加できる優しい大会だと思います。この大会がきっかけでスキーをするのが楽しくなりました！

去年は雪不足で、中々スキーの練習することが出来ませんでした。今年は去年よりも沢山スキー場に来て楽しんでいます！

来年は更に上達して、いっぱい賞状を貰えるように楽しみながらスキーを頑張ります！



中嶋ここね さん
大堀小学校3年



岩本晴義 さん
向町小学校6年

この大会で前走してくれた鏡選手の滑りと速さを目の当たりにし、もっと努力して上達したいと思いました！

赤倉温泉スキー場は、自分にとって最高のホームグラウンドです。このスキー場で練習を重ねて全国で活躍できる選手になりたいです！

いつもスキー場や練習に連れてきてくれるお父さんやお母さんに感謝して、これからもスキーを続けていきたいです。



U12クラス 岩本晴義 さん



最上町スキークラブ
会長 板垣太郎 さん

地元スキー場を通して
生涯スポーツの活性化

第24回を迎えたU12アルペンスキー大会(現モガンバカップ)。18年前、当時4歳で未就学児クラスに出場した鏡颯太選手が、今年2月開催の国スポで優勝した。当時の鏡選手はようやくボーゲンで滑られるレベル。スキーが速かったわけではなく普通の幼稚園児であった。数年がたち彼の努力もあり、最上町に生まれ育ちスキーを親しみ、赤倉温泉スキー場をホームグラウンドとし応援される環境が整っていた。そして今年、鏡選手は国スポ優勝を成し遂げた。最上町には赤倉温泉スキー場という楽しい遊び場がある。その遊び場を活用しない策はない。スキーもスノーボードも。競技としてもレジャーとしてもウインタースポーツを楽しめる環境がこの町にはある。生涯スポーツとしてウインタースポーツを楽しんでいただきたい。



未就学児クラスには県内外から参加。



表彰式ではモガンバ君がプレゼンター。



国スポを優勝した鏡選手が前走。



町のスキー場から 全国を目指して 2025 U12 モガンバカップ



3月2日、赤倉温泉スキー場で行われた「第24回 U12 モガンバカップ」。町内外から30名を超える子どもたちが参加し、モガンバ君とともに白銀のゲレンデで競技が行われました。今年で24年目を迎えるこの大会は、未就学児から小学6年までを対象に、「滑ることが出来れば誰でも参加できる、優しい大会」として町教育委員会と町のスキー団体が共同で開催しています。

また、大会では国スポで優勝した、最上町出身の鏡颯太選手(向町出身)が前走を務め、子どもたちは日本一の滑りを見て目を輝かせていました。この大会には、15年前に鏡選手も出場したことがあり、同大会から全国を目指す選手を輩出する可能性のある、希望に満ちた大会です。

雪不足の年を除いて必ず開催されてきた伝統ある大会です。未就学児は緩斜面のみで大会が行われています。ご興味のある方は是非、来年度ご参加ください。

